

愛媛県南予地方におけるヨツモンカメノコハムシの分布拡大

1. 目的

平成27年9月、県南部の愛南町のサツマイモにおいて、ヨツモンカメノコハムシの寄生及び葉の食害が初めて確認され、平成27年11月20日付で 病虫害発生予察特殊報を発出したところであるが、県南部におけるその後の分布拡大を確認するため現地調査を実施した。

本種は沖縄本島以南の熱帯～亜熱帯に分布するサツマイモの重要害虫であり、平成11年に長崎県で確認されて以降、九州各地（鹿児島県、宮崎県、福岡県）のほか静岡県（平成21年）、東京都（平成24年）、山口県、大分県、高知県（平成28年）、神奈川県（平成29年）において発生及び被害等が確認されるなど急速に分布を拡大している。

2. 調査方法

平成 27 年にヨツモンカメノコハムシによるサツマイモの被害が初めて確認された地点を起点として、北～北西方面へ範囲を拡大しながら、サツマイモ栽培園における本種の寄生及び葉の食害を調査した（宇和島市、鬼北町、愛南町）。

調査地点数及び確認地点数

調査年/期間	平成28年	平成29年
	9月	9～10月
調査地点数	15	33
食害確認地点数	3	22
寄生確認地点数	3	12

また、西予市三瓶町のノアサガオにおいて本種の生息情報が寄せられたことから、県西部（八幡浜市、大洲市、西予市、伊方町）のサツマイモ園地における寄生及び葉の食害を調査した。



ヨツモンカメノコハムシ成虫



ヨツモンカメノコハムシによるサツマイモの葉の食害

3. 結果の概要

- 1) 平成27年の寄生及び葉の食害は、初確認地点(愛南町正木地区)を中心に半径5 k m以内で確認された。
- 2) 愛南町における平成28年の寄生及び葉の食害は、山間部(2地点)を除く調査12地点全ての園地で食害が確認され、そのうち9園地で成虫の寄生が確認されるなど、全域(ほぼ半径20 k m)への分布拡大が認められた。また、20 k m以遠の宇和島市及び山間部の鬼北町では確認できなかった。
- 3) 県西部における寄生及び葉の食害は、伊方町三崎、西予市三瓶町で確認され、その範囲は半径20 k m程度の地域であった。西予市内陸部、八幡浜市、大洲市では確認できなかった。
- 4) 以上のことから、ヨツモンカメノコハムシの分布は温暖な沿岸部に沿って拡大し、その程度は年間半径 20 k m程度であると思われる。また、分布が2極化していることから愛媛県南予地域へは、南方と西方の2方向から侵入した可能性があると思われる。

4. 主要成果の具体的数字

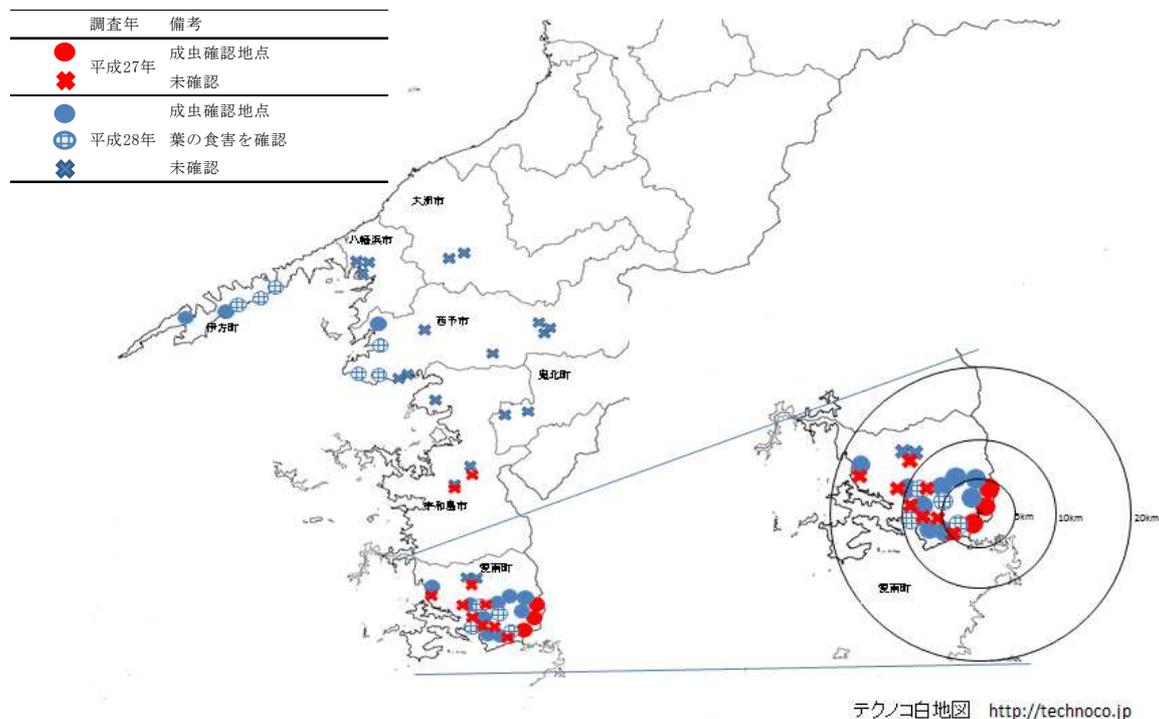


図1 ヨツモンカメノコハムシの調査地点、確認地点